

	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
①	足裏を刺激する足つぼロードの設置	（アイデア） 東武動物公園駅から東武動物までの道路で、歩道に平行して、足ツボ刺激ロードを設置し、駅から動物園までの来場者や、進修館利用者等に楽しんでもらえるような歩道にする。できれば、行き用と帰り用に2本設ける。手すり付き。 好評であれば、姫宮駅西口と和戸地区の姥が谷落とし等にも足ツボロードを作り、ゆくゆくは宮代町内ならどこでも足ツボ刺激スポットがある、足ツボの聖地で宮代の名前を売り出す。 （理由） 足ツボ専用マッサージ店があるなど、足ツボに関しては需要があることや、今は実施しているかわかりませんが、笠原小学校は裸足で校庭で遊ばせており、宮代町は足裏に関して、ある程度の下地があると思われる。 川越市にある熊野神社の入口両脇に足踏み健康ロードが設置されていて、参拝をする人が痛さを楽しみながら利用していた。自分も利用してみましたが、痛かったのですが、徐々にいた気持ちよさに変化し、足ツボが刺激されたせいか、体が温まり、腰痛が落ち着きました。 個人的ですが、この体験の後に人間ドックで検査を受けた所、血糖値の降下や、睡眠が深くなるなどの実感ができました。 長ければ長いほど造成することで話題性が高く、また、初級・中級・上級のある足ツボ刺激ロードを設置することで、足ツボ刺激による健康増進などの効果、体内デトックス効果を求める健康に気遣う広い世代が利用していくと思います。	①専門家に一番効果的な足ツボロードについて、意見を聴取する。 （最も刺激効果がある配置にしたいので、あえて住民の意見は入れない。） ②視察（川越市熊野神社・タニタ本社（足つぼ地獄道））で実体験 ③予算確保 ④工事施工 ⑤完成
		講評内容	
		・「歩く」をテーマにした道づくりとして、面白いと思った。 ・公共空間を利用した歩く事が楽しくなるユニークなアイデア ・足を洗ったり、休憩する場所も整備することでより良いスポットになると思う。 ・足つぼを刺激する平板などを市民参加のワークショップで制作することで、市民に愛着を持ってもらえるのではないかな。 ・道仏の桜の道公園を参考にすると良い ・駅から新しい村までの間で実際に人が歩いているのは役場側が多いので、何ヶ所かに分けて歩道の一部に設置するのは良いと思うが、ベビーカーや車いすの方に配慮する必要があると思う。 ・人が滞留する良いアイデアだと思う。 ・ケガや交通事故が起きないようにする必要がある。 ・まずは公園や広場に設置してみてもどうか。 ・健康寿命の延伸の一環として良いと思う。 ・動物の足型のつぼがあると面白い。 ・「健康」という広い観点から、健康遊具の設置をして新たな「健康マッ歩」の路線としてもよいと思う。	
	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
②	エディブル・ロード ～居心地が良く“食べたくなる” まちなか～	・世界各国で「エディブル（食べられる）」庭や街の取り組みがたくさんあります。イギリスのトッドモーデンという街では「エディブル・シティ」と銘打って、空き地や歩道に食べられる野菜やハーブが植えられています。 ・植物を育て食べることを通して、育てた野菜や植物を収穫し料理してみんなで食べるようなコミュニティを育み、子どもたちの食育にもつながっています。 ・宮代町は「農のあるまちづくり」を掲げ、わくわくロードはその象徴である「新しい村」につながっています。駅前的大通りを緑いっぱいのエディブル・ロードにして、そこで植物を育て、コミュニケーションが生まれ、それらを販売したり調理したりするような関係性育んでいきたいです。 ・育てるだけでなく、コンポストも設置し、廃棄生ゴミの削減にもつながります。コンポストで肥料貸したものがエディブル・ロードの畑の肥料として使われ、植物が育つことにつながる、道で循環が生まれ、学びも得られる場所になります。	・まずはプランターとコンポストを設置。できれば滞在できるベンチなども。 ・仲間を募って少人数ではじめる。設置場所にガイドをつくって賛同してくれる仲間を増やす。 ・植物が育ったら、収穫・調理・食事のイベントを「新しい村」で開催。 ・わくわくロード整備のタイミングで畑やコンポスト、滞在できる空間のハード整備を。
		講評内容	
		・町の彩りの演出とともに、食育にもつながる良いアイデアだと思う。 ・散歩の犬や野良猫等の動物の糞尿が気になる。見て楽しむ分には良いと思う。 ・道路沿いで管理者が分からないのが不安。食べないのであれば良い。 ・コンポストの匂いや虫、ゴミの散乱を誰が管理するのが気になった。 ・食育の取り組みとしては良いと思う。 ・以前、自分が商売をやっていた時に店先にプランターを置いていたが、管理するのが大変だった。 ・個人でやっていくのは難しいと思うので、コミュニティを作ってやった方が良い。 ・コンポストを設置することで、肥料として利用できるのは良い。 ・学習ができるのは良いと思う。 ・コンポストがDIYなのか既製品なのか検討が必要。 ・道路ではなく、新しい村近くの畑を借りて行った方が良いのでは。 ・新たに整備をしなくても、既存のレンガの植え込みを利用して始めてみても良いのでは。	

	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
③	スーパーロングベンチ	• わくわくロード沿いに、楽しい活動ができたり、滞在できる場所が必要！だとおもうので、まずは長ーいベンチをつくってみました。縁側のようなベンチが道路沿いに続いているのはインパクトがありそうです。 • やっぱり東武動物公園まで歩いていく人通りが多い現状ですが、休める場所が少ないのも難点です。子ども連れだったら、遊びながら休みながら歩けるような環境が嬉しいです。ときどきベンチが高くなってカウンターテーブルのようになり、キオスクのように露店がありサンドイッチなどワンハンドで食べられるテイクアウトがあればより嬉しい道になりそうです。 • 土日はちょっとはみ出して、銀行や薬局の駐車場をジャックして芝生広場化したイベントをしたいです。沿道が駐車場になっているのは寂しい。 • ベンチやファニチャーをきっかけに活動や滞在がしみ出していくような仕掛けができないか。	• ベンチづくりのワークショップを開催。地域の廃材なども使いながら、みんなでつくる。日本工業大学の木工サークルメンバーにも協力してもらいたい。 • 休日は駐車場などを貸し切ってイベント開催。駐車場オーナーと交渉。子どもの遊び場やキッチンカーなど公園のような場所をつくる。
		講評内容	
		• 商店会で各店舗一軒おきに店の前にベンチを設置していたこともあったが、なかなか使われなかったことや管理が大変になり最終的に撤去した経緯がある。 • 歩きたくなる道を考えるには、モノを置くのではなく歩道のつくり方を考えるべき。この道なら歩きたくなると思える歩道を作らないといけない。 • 商店の前にあるベンチならお店の人が管理をしてくれるが、お店が連なっているわけではないので、住宅の前や空き家等の前にあるベンチは管理できないと思う。 • 民間の駐車場を使用したイベントは良いアイデアだと思う。 • 提案者は長ーいベンチにこだわりを持っていて、オブジェ的な面白さを期待していると思う。ただのベンチではなく、高くなったり低くなったり、巻いている場所があったり、場所によって変形していると面白い。 • 日常的にはベンチとして使用し、設えを加えることでイベント時に使えるような、日常と非日常で使い方が変わるものを置くと良い。 • 現在ある滞留場所に置くと良い。 • 昼間は良いが、夜に人が集まって騒ぐことがあるのではないかと不安がある。 • 駐車場を使ったイベントは良いが、今までのマルシェとの違いをどのように見せていくかが課題となる。 • 一過性のイベントにならないよう、継続的にこの場に関わるための工夫を考える必要がある。 • ベンチが日陰になるようにして欲しい。夏のプール帰りの方や散歩中の方は休めるように工夫して欲しい。 • 木製ベンチを想定しているので、メンテナンスや安全対策を考える必要がある。 • ベンチづくりのワークショップがあれば、愛着が湧くので良いと思う。	
	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
④⑤	東武動物公園駅から新しい村までの道路両側（歩道）に花植えのプランター設置	東武動物公園は、宮代町としての顔の一つでもあります。動物園や公園に向かう心理を考えた場合、楽しくて、ワクワク感が大事だと思います。そこで、季節感を味わえる花々と、これから夢のテーマパークで楽しめるといふ、高揚感を引き出せる雰囲気を感じ出されたいと思います。 また、新しい村での憩いや、山崎山の自然環境にも触れ合えることができるように、道しるべにもなるといいます。宮代町は、農の自然と、そして夢と、希望のある、華やかさも、アピールできると、いいます。 プランターや、季節の花々は、統一性を持った内容とし、管理運営は、歩道の近隣店舗と住民が基本的に行うものとします。住戸のない場所の管理は、自治会にお願いできればと思います。 これにより、店舗への利用にも寄与するものと思います。 花々は、新しい村で選定、生育させて、自己調達できるものと考えます。	まず、四季に楽しめる花々の選定をします。 駅から新しい村までの距離に応じた、プランターを用意します。 新しい村で、花植え用の土を調達します。 プランター植えの花を調達します。 花いっぱい運動イベントを企画実施し、花をプランターに定植します。 管理運営マニュアルを作成し、近隣店舗住戸に説明、依頼します。 定期的に花への散水をします。 定期的に花枝の手入れ、病害虫の管理をします。
	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
	四季を通して花の咲く道 (花によるコミュニティ作り)	駅から新しい村までの道路の街路樹の下に現在は草が生えていますが、そこに一年草や宿根草を植え、四季を通じて花の咲く道を作る。 花は人の心を和ませる。また、育てることや土に触れることで愛情が湧き、心と身体が健康になる。 町外から動物園に訪れた人々を花の道で歓迎し、また、町の人々が散歩して心が癒される場を作る。 それぞれの世代の人々が集まって活動することで、新しいコミュニティができる。 園芸の専門家を招いて勉強会を開く。	広報やその他の方法で花の好きな人やこの活動に賛同してくれる人々を募集して、ボランティアグループを作る。
		講評内容内容	
		• 年間を通してフラワーロードで迎えるのは素晴らしい良いアイデアだと思うが、管理を考えると、市民参加だけでは限界があると思う。 • フラワーアートで動物やキャラクターを配置してみるのも面白い。木を刈り込んで作るトビアリーもあると良いと思う。 • 管理を全てシミに投げるのはハードルが高い。園芸の専門家を呼んで勉強会を行うのであれば、それを上手く活用できるのではないか。 • 実際に町内でプランターを設置し、有志の方で園芸店に指導してもらいながらやっているが、仲間が増えていかない。手入れが大変なので、誘っても断られるのが現状。 • 管理行き届いている場所は綺麗になっている。 • プランターや直植えだと維持管理が大変だったり、お店や住宅の前に置いてあると責任を感じながら管理をしなくてはならない。例えば、行田市でやっているように、四季を感じるような花を年4回花手水にして所々に置く方が期間限定でできるし、維持管理も簡単だと思う。 • 管理運営を歩道の近隣店舗と住民が行うことを基本とする考えなので、その場所に携わる人々の意識改革が必要になってくる。 • 地元の商店会や自治会に賛同していただければすぐにでも出来そう。 • 宮代町は「豊かな地域づくり推進事業費補助金」で、「花いっぱい活動（継続的な活用）」を支援しているので、それを活用してぜひ実現して欲しい。	

	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
⑥	町のホットステーション	現状、東武動物公園から新しい村までの間のわくわくロード事業に関わる道ぎわで宮代町の成り立ちや何故？農あるまちづくりを標榜しているのか情報を得たりランダムな交流から宮代町の物産や人柄に触れる機会が少ないと感じました同時に、歩くメリットとして、目に留まりふと寄り道したくなる場所が出来たらとも感じました本アイディアは笠原地内の空き家を改装し上記の課題に取り組むと共に規制上問題がなければ一階を町の紹介、カフェや飲食等のスペースと夜は簡易宿泊（ベッドのみ提供）で、新たな滞留と宿泊することにより、より宮代町の朝夜の魅力を体験してもらい5 つの柱の「歩きたくなる町中を創出」、「関係人口を増やす」「市民参加を推進」を実現させたいと思います。 また、2階の住居部は私が第一号のコーディネーターとして入居し立ち上げと軌道に乗るまでのコンテンツ造成を行いたいと思います。 尚、費用は所有者の交渉が本案採択後なので建物の中を見ることができず躯体の損傷度によりますが、600 万から800 万前後と考えます運営のスタッフやオペレーションに関してもプロジェクトとして広く参画者を募集し進められたらと思います。 （日工大の佐々木先生が条件さえ合えばリフォームを学生と手伝ってくださる予定です）。	採択された場合は 貸主と使用の交渉 リフォームの算出 施設の運営方針とオペレーションの確定 宮代町役場、貸主承諾 工事 完成後 運営開始。
		講評内容内容	
		・新しい村や東武動物公園などの観光拠点があるものの、宿泊施設が整っていない宮代町にとっても魅力的な施設になり得るのではないかと思います。 ・これが発展して、朝採りの地元野菜を使った料理の提供や村育ちのお米で作ったおにぎりの提供ができれば良いと思う。 ・新たな滞留施設となることも期待できると思う。 ・宮代町では、空き家に対する条例が施行され、7月から空き家対策についての会議が始まったが、空き家のリフォーム事例としてうまく活用することで新しい場所づくりに発展すると面白い。 ・空き家をコミュニティ施設として活用するのは良いアイデアだと思うが、もう少し気軽に人の出入りが生まれるようなコンテンツを考える必要がある。 ・駅前にカフェ等が増えてきているので、どのように差別化するのが重要となる。 ・歩く人に対して、立ち寄りたくなるような使い方を考える必要がある。 ・無印良品ができる前に駅前で藁のホワイトタイガーを作って置いていたが、藁を活用した干し草のベッドで泊まれたり、ハンモックがあったり、バンガローのような感じで泊まれるような施設が町内のあちこちにあれば、空き家対策にもなる。 ・空き家を活用するアイデアは良いと思うが、ホットステーションの内容はあまり他と変わり映えないので、もう少しアイデアを練った方が良いと思う。 ・宿泊は農業体験や田舎体験ができる別の場所で宿泊できると良いと思う。 ・「宿泊施設」はハードルが少し高いように感じる。日帰りペースで気軽に宮代町に関わってもらえるコンテンツを検討する方法もあると思います。 ・町内の宿泊施設の事例として、日本工業大学の学生や市民の方が参加して古民家のリノベーションを行い、農泊の提供を行っている場所があります。同じように、学生や市民の方が関わることで、新たなコミュニティができると良い。	
	タイトル	アイデア、やりたいことの内容と理由	アイデアを実現するためのプロセス
⑦	宮代でアートトリック写真展	週末にトリックアートのマットやパネル、色々なアート作品を町中に展示する。 いろんなポーズや、コスプレしていかにもアートの写真を撮って町のホームページに載せる。 月に一度、一般投票で賞を決める。（何か景品がでるといいね） バエル写真を見たひとが、そのポーズや構図をまねしてとりたくなり宮代にいろんな人がやってくる。	トリックアートのマットやパネルを用意する。 町の映えスポットをピックアップする。 みんなでいろんな写真を撮ってホームページに載せる 人の流れが出来ると、そこに商売が起きる（路上販売、空き店舗）での小物やアクセサリーやドリンク、パーガー屋など
		講評内容内容	
		・一定のエリア内に何ヶ所か映えるようなスポットを整備するのは、人の流れをつくるための良いアイデアだと思う。 ・トリックアートかどうかは別として、映えるスポットを設置して市民や観光客が訪れて、SNS等に写真をあげてもらうことで、町のPRにもつながると思う。 ・町のことを知るためには画像検索をするという話もあるので、そういう意味でも若い人にSNSであげてもらうのは良いと思う。 ・職業にしている人や趣味の人など、様々な人の作品を他の人に見てもらうことができるのはうれしいことだと思う。 ・トリックアートを見ようとなると、入場料などのお金を支払って見ることの方が多いので、子どもやトリックアートをみたことがない人にとっては、驚きや感動を与えられることができてすごく良いことだと思う。 ・アート作品を長い掲示板に展示するのでも良いと思う。 ・歩いてもらうためには、道沿いに写真を展示するような場所があると良いと思う。 ・常設的なものなのか、仮設的（イベント的）なものなのかで、大きく変わると思う。 ・宮代町出身の片桐仁さんが以前にアート作品を作成して、町に寄贈してくれたことがあるので、コラボできたら良いと思う。 ・顔はめパネルや動物のパネルを駅前や道路沿いに設置してあるとSNSで映えスポットになれば話題性があると思う。 ・イルミネーション期間に実施すると良いと思う。 ・スキップ広場を利用してできるとアイデアだと思う。 ・トリックアートやコスプレなど、流行の活動を取り入れるアイデアが賑やかで楽しそうではあるが、一過性のイベントで終わってしまわないか不安が残る。 ・単独で行うのではなく、他のアイデアと組み合わせるともっと良くなると思う。 ・健康スタンプラリーのような感じで実施すると良いのではないかな。 ・トリックアートだけでなく、既存の資源を活かし、相乗効果が生まれるようなアイデアがプラスされればより現実性が高くなると思う。	